

資料・統計

2003年病理部業務統計

Annual Report of Pathology in 2003

阿部 康彦 木下 律子 小林 由美子 泉田 佳緒里
 佐藤 由美 北澤 綾 栗原 アツ子 川崎 幸子
 弦巻 順子 嵩岡 幸子 丹後 絹代 太田 玉紀
 本間 慶一 根本 啓一

Yasuhiko ABE, Noriko KINOSHITA, Yumiko KOBAYASHI, Kaori IZUMIDA,
 Yumi SATOU, Aya KITAZAWA, Atsuko KURIHARA, Sachiko KAWASAKI,
 Junko TSURUMAKI, Yukiko TAKAOKA, Kinuyo TANGO, Tamaki OHTA,
 Keiichi HOMMA and Keiichi NEMOTO

要旨

2003年(1月~12月)病理部業務統計をまとめた。総依頼件数は23,642件で、内訳は病理組織診断11,622件、細胞診断12,020件、電子顕微鏡検索23件、病理解剖23件、細胞診、組織診を合わせた術中迅速診断1,051件、院外受託1,544件、肺癌検診喀痰細胞診1,794件であった。業務件数は作製ブロック数48,803個、各種染色標本97,425枚であった。受け入れた研修、実習生は総数19名であった。

2003年には乳癌のHER2 タンパクの免疫組織化学的検索HercepTestが前年と比較し倍増し444件となった。またFISH法によるHER2 遺伝子の検索も開始した。さらに試行の段階ではあるが、悪性リンパ腫の遺伝子学的検索も始めた。

はじめに

2003年病理部業務統計を報告する。医療の高度化、癌治療の進歩に伴い病理部に対する要望も多岐にわたり、より詳細な情報の提供、あるいはより高度な病理学的検索法が求められるなかで、できるかぎりの努力をしてきた。

また当がんセンターの理念の一つでもある教育的立場でも研修医、医学部学生、検査関連実習生の受け入れ、さらには中国からの研修医の受け入れ等最大限の対応をしてきた。

2003年病理部業務件数(表1)

受付依頼件数はほぼ横ばいで総依頼件数は23,642件で、組織診11,622件、細胞診12,020件であり、うち肺癌喀痰集検が1,794件であった。細胞診は大幅な増加ではないが年々確実に増加しており、2003年には肺癌検診を除いた件数ではじめて10,000件を突破

した。院外受託は1,544件で、やはり増加の傾向がみられる。14施設から依頼があり、依頼施設は県立病院5施設(加茂病院、津川病院、坂町病院、新発田病院、吉田病院)、その他9施設であった。術中迅速診断は1,051件で、細胞診でとくに増加した。業務件数は作製標本数で90,000を超え、100,000枚に近づいている。免疫染色も年々増加し10,000枚を越えた。さらにHercep Testは前年比で倍増し400件に達した。

依頼件数が横ばいであるなかで、これらの件数の増加は病理からのより詳細な情報の提供が求められている一つの現れであると思われる。

2003年病理検査科別依頼件数(表2)

総依頼件数は21,871件で、組織診では11,622件中予防センターが4,691件で約4割を占め、消化器内視鏡が大半であったが、減少傾向が続いている。本院では外科の件数が一番多く、続いて婦人科、皮膚科、

表1 2003年病理部業務件数

		総件数	組織診	細胞診	電子顕微鏡	病理解剖	遠隔診断
依頼件数	がんセンター	14,774	5,723	9,051	21	23	3
	がん予防センター	5,530	4,691	839	1		
	院外受託 ¹⁾	1,544	1,208	336	1		
	術中迅速(再掲)	1,051	450	601			
	肺癌喀痰集検 ²⁾	1,794		1,794			
	(依頼合計)	23,642	11,622	12,020	23	23	3
業務件数	ブロック数	48,964	47,964		161	839	
	切り出し数	67,764	66,925			839	
	普通染色	81,519	63,259	17,420		840	
	特殊染色	4,613	3,456	1,128		29	
	免疫染色 ³⁾	10,755	10,216	393		146	
	ISH染色 ⁴⁾	92	92				
	Hercep Test ⁵⁾	444	444				
	FISH ⁶⁾	2	2				
	(染色合計)	97,425	77,469	18,941		1,015	
実習生	研修医	4					
	医学部学生	3	新潟大学医学部				
	臨床検査学生	10	新潟医療技術専門学校	5	北里保健衛生専門学校	5	
	中国研修生	2	中国黒龍江省医師				
職員	病理医	3.1	常勤 3.0, 非常勤 0.1(隔週1日)				
	細胞検査士	7					
	臨床検査技師	3					

1) 院外14施設(県立病院5施設, その他病院, 医院9施設)

2) 9市町村を担当した

3) 免疫染色では120種類以上の抗体を使用

4) In Situ Hybridization (ISH) によるEBウイルスの検索を行った

5) 乳癌のHER2 タンパクの免疫組織化学法での半定量的検索を行なった

6) FISH法による乳癌のHER2 遺伝子の検索

表2 2003年病理検査科別依頼件数

	総依頼件数	組織診件数 (%)	細胞診件数 (%)	電顕件数	病理解剖
内科	1,476	463(4.0)	997 (9.7)	1	17
内科(がん予防) ¹⁾	2	1(0.0)	1 (0.0)		
神経内科					
精神科					
小児科	597	332 (2.8)	261 (2.5)	18	4
外科	1,832	1,329 (11.4)	503 (4.9)	1	
外科(がん予防)	1,107	269(2.3)	838 (8.2)		
整形外科	286	273 (2.3)	12 (0.1)		1
脳神経外科	80	60 (0.5)	20 (0.2)		
呼吸器外科	717	315 (2.7)	402 (3.9)	1	
心臓血管外科					
内視鏡	685	158 (1.3)	527 (5.1)		
内視鏡(がん予防)	4,421	4,421 (38.0)			
産婦人科	5,644	968 (8.3)	4,678 (45.6)	1	
耳鼻咽喉科	463	273 (2.3)	190 (1.8)		
口腔外科	2	2 (0.0)			
眼科	8	8 (0.1)			
皮膚科	733	731 (6.3)	2(0.0)		
泌尿器科	2,213	809 (7.0)	1,403 (13.7)		1
放射線科	60	2 (0.0)	58 (0.6)		
麻酔科					
院外受託 ²⁾	1,545	1,208 (10.4)	336 (3.3)	1	
総計	21,871	11,622 (100%)	10,226 (100%)	23	23

1) (がん予防): がん予防総合センター

2) 組織診断主に消化管生検材料, 骨髄, 乳腺の受託

細胞診は加茂病院が主で尿, 喀痰をはじめ材料は多彩

表 3 2002年病理組織部位別件数

	総件数	生検材料	手術材料	迅速材料
頭～頸部	262	104	143	15
甲状腺	63	0	60	3
気管支・肺	437	162	253	22
乳腺	754	295	444	15
肝臓	89	17	64	8
心・縦隔	50	11	29	10
膵・胆道系	236	0	202	34
食道	336	301	32	3
胃	3,320	2,970	321	29
十二指腸	153	123	29	1
小腸	35	18	17	0
大腸	2,637	2,425	210	2
腹膜・腸間膜	72	1	59	12
腎・副腎	78	1	77	0
膀胱・尿管	232	157	63	12
陰茎	10	5	5	0
前立腺	532	467	65	0
精巣	58	4	53	1
卵巣	236	0	207	29
子宮	857	502	349	6
骨・軟部組織	286	11	239	36
骨髄	840	840	0	0
皮膚	719	150	566	3
脾臓	33	0	33	0
リンパ節	1,502	20	1,273	209
(合計)	13,827	8,584	4,793	450

※ 総件数, 生検材料, 手術材料は延べ総数を計上

表 4 2002年細胞診成績

	件数 ¹⁾	迅速 ²⁾	Class I	Class II	Class III	Class IIIa	Class IIIb	Class IV	Class V	検体不良	所見のみ
頭～頸部	45		1	34	3			1	3		3
甲状腺	479		22	337	14			6	52	46	2
気管支・肺	826	50	31	386	50			31	317	8	3
喀痰 ³⁾	753		30	605	25			21	60	12	
肝・胆・膵	27			7	3			2	10	2	3
子宮頸体部	4,810		1,028	3,401	69	206	23	20	53	6	4
子宮断端部	305		150	129	4	3	1	5	12		1
外陰部	9		2	6	1						
骨髄	32		7	24					1		
腫瘍	39	2	1	19	2			1	15		1
リンパ節	87		3	18	5			4	49	6	2
心嚢液	8			3	1				4		
脊髄液	352		16	248	33			9	45		1
胸水(洗浄液含)	336	153	16	225	6			7	82		
腹水(洗浄液含)	697	512	30	506	13			13	131	4	
尿	1,572	2	102	1125	125			47	161	12	
その他	33	7	3	17	1			1	7	4	
(合計)	10,410	726	1,442	7,090	355	209	24	168	1,002	100	20

	件数	迅速	検体適正(良性)		鑑別困難 Class III	悪性疑い Class IV	悪性 Class V	検体不適正	所見のみ
			Class I	Class II					
乳腺	905	4		386	37	41	279	159	3

- 1) 細胞診検査材料は延べ件数を計上
- 2) 術中迅速細胞診材料は延べ件数を計上
- 3) 肺癌検診の件数は含まず
- 4) 乳腺は7月に判定基準の変更あり別計上

泌尿器科の順で、婦人科や外科(乳腺外科)が増加の傾向がみられる。院外受託は1,208件で約1割を占め、県立加茂病院、県立津川病院、佐渡総合病院の3病院で大半を占めている。

細胞診では産婦人科が10,226件中4,676件で半数近くを占め、続いて泌尿器科、内科、予防センター外科、内視鏡(呼吸器)の順で依頼が多く、とくに乳腺外科、院外受託に増加の傾向がみられる。

電頭依頼は血液疾患主体で小児科が23件中18件で大半を占めた。また剖検は23件で過去最低の件数と思われ、内科が主体であった。

2003年病理組織部位別件数(表3)

部位別件数では延べ件数13,827件中消化器系が半数以上を占め、生検材料でも消化器系が圧倒的に多く、続いて骨髓生検、婦人科系、前立腺、乳腺、呼吸器系の順であり、とくに婦人科、前立腺、乳腺が前年と比較し増加している。手術材料ではリンパ節、消化器系、皮膚科系、婦人科、乳腺、呼吸器系、骨・軟部等の順で乳腺の増加傾向がみられた。迅速材料は前年とほぼ同件数であるが、センチネルリンパ節生検との関係でリンパ節の増加が大きく、209件に達した。続いて骨・軟部、膵・胆道、胃、卵巣等の順に多かった。

2003年細胞診成績(表4)

件数は延べ件数であり、10,410件であった。子宮

頸体部が4,810件で半数近くを占め、続いて尿、乳腺、気管支・肺、喀痰、胸腹水が多かった。とくに乳腺の増加が目立ち900件に達した。なお乳腺については7月より判定基準を変更したため別計上した。術中迅速細胞診は726件で前年より増加し、うち胸・腹水が665件で圧倒的に多く、ついで肺・気管支が目立った。なお迅速細胞診は通常の保険点数しか認められず、負担の大きい割に評価が低く、今後の点数増を期待する。細胞診陽性(Class IV, V)は1,490件で13.2%でほぼ前年なみであった。また目的とする細胞がほとんど見られないような標本で検体不良としたものが259件で2.0%近くあり、前年より40件強多いものの割合は同様であった。しかし前年同様乳腺、甲状腺穿刺吸引細胞診に多く、とくに乳腺では17%近くに達した。乳腺の判定基準では10%以下が望ましいとされており、また検体不良は再検査など患者への負担増につながるので、臨床側とも相談の上減少するよう改善に努めていきたいと考えている。

おわりに

2003年病理部業務統計を報告した。依頼件数は横ばいではあったが、業務量は増加した。内容の濃い業務で大変な状況ではあるが、今後も臨床側の要望にできる限り応えられるよう努めていきたい。

最後に皆様のご協力に感謝するとともに、今後もよりいっそうのご協力をお願いします。